

■植村直巳 極限となる地への冒険に次々と挑戦、様々な世界的記録を残しながら、遂に冒険中に消息を絶つて早世。

うえむらなおみ

日米開戦・1941= 兵庫県城崎郡国府村(現且局町)で農家の末子として生まれた。

敗戦・1945= 4歳：

新憲法施行・1947= 6歳：小学校に入学。小学校時代は、家で飼っている牛の世話や、炊事、手伝いをよくした。

朝鮮戦争始・1950= 9歳：

独立回復・1951=10歳：

TV放送始・1953=12歳：中学校に入学。課外活動ではバレエ部に入部。ヘビやカエルなどを捕まえてはイタズラしていた。

国連加盟・1956=15歳：兵庫県立豊岡高等学校入学。_同級生と残雪のある蘇武岳に登る。

美智子妃・1959=18歳：豊岡高校卒業。進学を希望したが、母が就職先を決めてしまい、新日本運輸に就職。希望して、東京の両国支店に転勤後、会社の寮で密かに受験勉強を続け、退職。

安保闘争・1960=19歳：_明治大学農学部農産製造学科に入学と同時に山岳部に入り、初めて北アルプス白馬岳に登る。トレーニングとして富士山に登り、これが初の単独山行となる。大学在学中は、年間120日以上山に入る。

TV宇宙中継始1963=22歳：_山岳部サブ・リーダーとなり、「人の上に立つための試練」として初めての本格的単独山行を試みる。

東京リビッド1964=23歳：*明治大学卒業。外国に行きたいと、4万円だけで、横浜港を出港。カリフォルニアの農場で働いていた時、観光ビザだったため拘束、国外退去となり、フランスへ。モンブラン単独登攀を試み、クレバスに落ち、九死に一生を得る。スキー場の経営者(冬季オリンピック滑降優勝者ジャン・ピュアルネ)にかわれ、就職。

大学紛争始・1965=24歳：_スキー場で働いている時、明治大学山岳部のヒマラヤ遠征隊の誘いがあり合流。この遠征で初めてシェルパ族との交流を体験。シェルパのペンパ・テンジンとゴジュンバ・カンII峰を初登頂。フランスに戻る。

いざなぎ景気1966=25歳：*ヨーロッパ最高峰のモンブラン単独登頂に成功。続いて、マッターホルンにも単独登頂。ケニアに向かい、ケニア山のレナナ峰登頂。アフリカ最高峰キリマンジャロに単独登頂。フランスのスキー場へ戻る。

美濃部都知事1967=26歳：_アマチュア・スキー大会で、大回転の種目に入賞。グリーンランド西海岸に初めて足を踏み入れ、ヤコブスハウンドで氷河を視察。南米の最高峰、アコンカグアに単独登攀をするべく、スキー場を去る。

震ヶ関ビル・1968=27歳：_アコンカグアの処女峰に初登頂、明治峰と命名。アマゾン川をイカダで下った後、アメリカに渡り、かつて働いていた農場で働く。そこで稼いだ300ドルを持って、アラスカへ。マッキンリー単独登頂を試みるが、登山許可がおりず、代わりに、サンフォード山に登頂。4年半ぶりに帰国した。

全共闘ビーク・1969=28歳：_日本山岳会からエベレスト遠征の話が舞い込み、現地越冬して、本隊がくるまでの準備を進める。

大阪万博・1970=29歳：_第1次アタック隊に選ばれ、*松浦輝夫とともに、日本人として初めて世界最高峰エベレストの頂に立つ。帰国後、アラスカへ飛び、マッキンリーの単独登頂に成功し、世界初の5大陸最高峰登頂者となった。

ドルショック・1971=30歳：_グランド・ジョラス北壁を完登、過酷な状況のなか、無傷で生還。帰国後、日本列島3000キロを徒歩で縦断。初めての著書「青春を山に賭けて」を上梓。

日中国交回復1972=31歳：_南極を偵察後、グリーンランド最北端の町に入り、エスキモーと共同生活を始め、老夫婦の養子になる。

石油ショック1973=32歳：_3000キロの単独犬ゾリ旅をした後、帰国。この頃、行きつけのトンカツ屋で、野崎公子と出会う。

角栄金脈辞任1974=33歳：_明大炉辺会のヒマラヤ遠征偵察隊として、ダウラギリに行く。帰国後、野崎公子と結婚。再び、グリーンランドへ向かい、北極圏単独犬ゾリ旅を始める。

クアランプール事件1975=34歳：_様々な困難を乗り越え、カナダ領内に入って、越夏の後、

田中角栄逮捕1976=35歳：_厳冬の極限の状況のなか、アラスカに入り、1万2000キロ単独犬ゾリ旅に成功。帰国後、ユーカサス地方の最高峰エルブルーズに登頂。

JALハイジャック・1977=36歳：_北極点行きのためカナダ領リゾリュート偵察。

成田衝突・1978=37歳：_母が死去。_世界初の北極点犬ゾリ単独行に出発、再び苦難を乗り越えて北極点に到達。グリーンランド単独犬ゾリ縦断をして、帰国。

革新大敗北・1979=38歳：_イギリスのパラー・イン・スポーツ賞を受賞。中国政府の招待でチベットのラサを訪れる。

貿易摩擦問題1980=39歳：_訓練のため同志とともに、アコンカグアの冬期遠征後、_日本冬期エベレスト登山隊隊長として出発。

1981=40歳：_隊員一人を失って、冬期エベレスト登頂計画を断念。

中曽根内閣・1982=41歳：_南極大陸3000キロの犬ゾリ走破と同大陸最高峰ビンソン・マシフ登頂のため、南極へ向かう。

デイズ・ノート・1983=42歳：_フォークランド紛争のため、アルゼンチン軍の協力が得られず、計画を断念。1年間の南極越冬生活を終え、帰国。アメリカのカナダ国境に近い野外学校「ミネソタ・アウトワード・バウンド・スクール」視察。

1984=43歳：_アラスカへ行き、*世界初のマッキンリー冬期単独登頂に成功後、消息を絶つ。国民栄誉賞。